

2023年  
新春特別公演

若狭・小浜から和久里壬生狂言をお招きして

# 大念佛狂言の世界

～嵯峨・千本えんま堂・和久里壬生狂言～

## 嵯峨大念佛狂言

嵯峨大念佛狂言保存会

あたまいり  
愛宕詣

## 和久里 壬生狂言

和久里壬生狂言  
保存会

はなぬすっと  
花盗人

## 千本えんま堂 大念佛狂言

千本えんま堂  
大念佛狂言保存会

ぼたんじし  
牡丹獅子

令和5年(2023年)

1.14<sub>土</sub> 13時開演  
12時30分開場 / 16時終演予定

入場料 1,000円  
(自由席)  
10月1日(土)午前10時  
発売開始

京都市右京ふれあい文化会館 ホール

〒616-8065 京都市右京区太秦安井西裏町11番地6 TEL:075-822-3349

URL: <https://www.kyoto-ongeibun.jp/ukyo/>

チケットのお問い合わせ・お買い求め

|            |              |   |
|------------|--------------|---|
| 右京ふれあい文化会館 | 075-822-3349 | 9時～17時 / 火曜日休館 (休日の場合は翌平日)  |
| 京都コンサートホール | 075-711-3231 | 10時～17時 / 第1・第3月曜日休館 (休日の場合は翌平日)  |
| ロームシアター京都  | 075-746-3201 | 10時～19時 / 年中無休 (臨時休館日を除く)   |
| オンラインチケット  | 24時間購入可      | ※要事前登録 (無料) <a href="https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/">https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/</a> |

※右京ふれあい文化会館では、直接ご来館いただいたうえでの支払い、チケットの受取りになります。  
※京都コンサートホール、ロームシアター京都でご予約の場合は、①それぞれのチケットカウンターでの支払い、チケットの受取り、  
②セブンイレブンでの支払い、チケットの受取り(手数料が必要)、③郵便局でのお振込み、チケットの郵送(送料等が必要)が可能です。

講演

「大念佛狂言  
とは」

八木 透

(佛教大学歴史学部教授)

※新型コロナウイルス感染拡大  
防止対策につきましては、  
社会情勢等を考慮したうえで  
適切に対応してまいります。



右京ふれあい文化会館  
ホームページ

[主催]: 京都市右京ふれあい文化会館(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)/京都市



2023年  
新春特別公演

# 大念佛狂言の世界

～嵯峨・千本ゑんま堂・和久里壬生狂言～



## 大念佛狂言とは

平安後期の天台僧、聖応大師良忍が開いた融通大念佛の信仰は、ひとりの念仏往生が多くの人々の念仏往生を約束するということ、鎌倉時代から室町時代に庶民の間に広まった。その布教の拠点<sup>だいいん ぶつえ</sup>は嵯峨清凉寺や壬生寺、千本ゑんま堂といった民衆の寄りあい場のような寺院であった。融通念仏を実践する「大念佛会」にやがて狂言がともなうようになって発展してきた民俗芸能が今日の大念佛狂言である。壬生寺、千本ゑんま堂<sup>いんじょうじ</sup>（引接寺）、嵯峨釈迦堂（清凉寺）に伝わる大念佛狂言を京の三大念佛狂言といい、壬生の分流とされる「神泉苑大念佛狂言」を加えて四大念佛狂言とされる。

さて、福井県小浜市からお招きする和久里壬生狂言のことである。和久里壬生狂言は壬生から伝わったものと考えられているが、清凉寺の釈迦如来の開帳が文化7（1810）年に小浜城下の極楽寺で行われた記録が残る。「主従六十八人来濱」とあり、出開帳に合わせて嵯峨大念佛狂言が上演されたと推測される。そして小浜では、この六年後の文化13年以降、「市の塔」と呼ばれた宝篋印塔の子年・午年ごとの七年供養祭に、塔の建つ永三小路の町民による「壬生狂言」の上演が恒例となった。当時から壬生狂言は大変有名であり、大念佛狂言一般を指して「壬生狂言」といった可能性もあることから、小浜の「壬生狂言」は「嵯峨大念佛狂言」が伝わったものだったかもしれないが、そのあたりの詳細については記録がなく不明というほかない。明治6（1873）年に「市の塔」は和久里へ移転、「壬生狂言」も以降は和久里区民が伝承してきた。今回、和久里壬生狂言と嵯峨大念佛狂言とが舞台を共にすることは、上記のような歴史を振り返ると、大きな意味がありそうである。

## 嵯峨大念佛狂言

国指定重要無形民俗文化財「嵯峨大念佛狂言」 昭和61年（1986）指定

<https://www.sagakyogen.info/>

嵯峨大念佛狂言は円覚上人が大念仏として始めたものであり、釈迦堂の大念仏は弘安2（1279）年の始行と伝えられ、応永年間（1414年頃）にはすでに恒例化していたことが知られるが、この大念仏に狂言がともなうようになった確実な時期については分かっていない。保存されている古面の刻銘から、享祿2（1529）年には大念仏に狂言がともなっていたと考えられるが、確実な資料から嵯峨大念佛狂言が定例行事として充実していくのは、江戸時代に入ってからと考えられている。

## 千本ゑんま堂大念佛狂言

京都市登録無形民俗文化財「千本ゑんま堂大念佛狂言」 昭和58年（1983）登録

<https://enmadokyogen.info/>

千本ゑんま堂大念佛狂言の創始については詳細不明であるが、平安後期の天台僧、定覚上人が布教のため大念佛法会を始めたのがその起源と伝えられ、「ゑんまどうの狂言はだ一れが先は一じめた、でっかい坊主が一じめた。」とわらべ唄のなかでも紹介されている。その後一時中断するが、鎌倉時代の文永年間<sup>ぶんえい</sup>に、如輪上人が再興し、室町時代には隆盛を極め、その後多くの変革を経て今日に伝えられてきた。なお、千本ゑんま堂の狂言のみ他の大念佛狂言とは異なり、せりふが伝えられている。

## 和久里壬生狂言

国選択無形民俗文化財「和久里壬生狂言」 平成15年（2003）選択 / 福井県指定無形民俗文化財「和久里壬生狂言」 昭和61年（1986）指定

和久里壬生狂言は、福井県小浜市和久里<sup>さいほうじ</sup>の西方寺境内にある南北朝時代建立の宝篋印塔<sup>ほうきょういんとう</sup>の七年供養祭に、京で興った念佛狂言を江戸時代から今に伝え奉納されている狂言である。若狭へ伝えられた経緯については不明なことも多いが、昔より子と午の年に法楽として奉納してきており、明治以降、和久里の地で奉納されていたことがわかっている。着面無言の狂言で、奉納される演目は9曲、うち6曲は壬生の大念佛狂言と内容が殆ど同じであり、また2曲は、かつて京で行われていたが、今は伝承されていない演目であると考えられている。

講師  
プロフィール

## 八木 透 Toru Yagi

1955年（昭和30）年、京都市生まれ。同志社大学文学部卒業、佛教学大学院博士後期課程修了。文学博士。現在、佛教学大学院教授、歴史文化学科長。専門は民俗学。世界鬼学会会長、日本民俗学会監事、京都民俗学会会長、公益財団法人祇園祭傘鉾保存会理事、京都府および京都市文化財保護審議委員ほか多数歴任。「婚姻と家族の民俗的構造」（吉川弘文館）「京都の夏祭り」と民俗信仰」（編著、昭和堂）「京都愛宕山と火伏せの祈り」（編著、昭和堂）「京のまつりと祈り」（昭和堂）「日本の民俗信仰を知るための30章」（単著、淡交社）「祇園祭 温故知新」（共著、淡交社）「現代家族のリアル」（共著、ミネルヴァ書房）ほか著書多数。



和久里壬生狂言の舞台



アクセス

- JR 山陰本線嵯峨野線 「花園駅」下車 南へ徒歩約5分
- 京都市営地下鉄東西線 「太秦天神川駅」下車 ①番出口から北へ徒歩約10分
- 京福電鉄 嵐山線 「嵐電天神川駅」下車 北へ徒歩約12分
- 京都市営バス 27号系統・特27号系統「右京ふれあい文化会館前」下車  
91号系統・93号系統「花園駅前」下車  
8号系統・特8号系統・75号系統・特93号系統「黒橋」下車

